

県民の森の植物 65

ハイヌツゲ (モチノキ科)

日本海側の多雪地帯に生える常緑低木です。雌雄異株。下部は名前のとおり地を這って、ひっそりと林床で生活しています。冬は雪の下に埋まって過ごしていて、雪が融けると緑の葉をつけたまま出てくるので、芽吹き前のこの時期が一番目立ちます。7月頃に小さな可愛い白い花を咲かせて、秋に黒い実が出来ます。園内各所で見られる、じつは身近な木です。七滝登山道では一服峠周辺から、よく似た実が赤いアカミノイヌツゲも見られるようになります。



アカミノイヌツゲの実
10月29日



雪融けて出てきた葉 4月11日



花 7月4日



実 11月6日